

4年生、車椅子体験

10月5日、4年生が体育館でクラスごとに車椅子の体験をしました。始めに先生から車椅子の取り扱い方や動かし方の説明を聞きました。ほとんどの子が初めて車椅子に乗るため、真っ直ぐ前へ進むことも難しいようでした。「腕がとても疲れた」「自分の予想しているように動かなかった」と感想を話してくれる子もいました。乗り始めの頃は、ぐねぐねと蛇行しながら進んでいましたが、慣れると真っ直ぐ行けるようになってきました。「曲がる方向と反対側の車輪を回すと、簡単に曲がれる」と周りの子にアドバイスできる子もいました。



先生の説明

次に、ペアになって車椅子の介助の仕方を学びました。介助の人は、始めに車椅子に乗っている人と目線を合わせてあいさつをする。車椅子を動かす際には、「出発します」と声を掛ける。段差を越えるときには、「段差があります」と声を掛ける。車椅子の人が、不安にならないように心配りすることが大切だと知りました。



車椅子を進める

実際に、マットを段差に見立てて車椅子を押してみました。どの子も、学んだように目線を合わせ、相手に声を掛けながら上手に介助が出来ていました。



段差での介助

坂道では車椅子をバックで進ませることも、体験しました。体育館から渡り廊下につながる坂の部分を使い、介助役の子は慎重に車椅子を進ませました。

また、体育館の手洗い場で、車椅子に乗って手を洗ってみると、流し台の外側から手を伸ばさなければならず不便なことが分かりました。



坂道での介助

これからは、街中で困っている人を見かけたらお手伝いしたり、身近な場所でのバリアフリーについて考えたりしてほしいです。